

■ ここまでのまとめ

平面ベクトル $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ (あるいは点 $P(x, y)$) は, 線型変換 f によって, $\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix}$ ($P'(x', y')$) へと写される. このことを,

$$\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = f\left(\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}\right) \quad \text{あるいは} \quad P' = f(P)$$

などのように書く. なお, この線型変換 f は, 必ず 2×2 行列 $\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix}$ で表される. このとき,

$$\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = f\left(\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} ax + by \\ cx + dy \end{bmatrix}$$

である.

■ 図形の変換

これまで考えていた「点」も図形だけど.....

【例題 3.4】

行列 $\begin{bmatrix} 1 & -2 \\ 3 & 1 \end{bmatrix}$ および $\begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}$ で表される線型変換をそれぞれ f, g とするとき, 直線 $y = -x + 1$ は, f, g によってそれぞれどのような図形に移されるか.

(線型変換 f による図形 G 上の各点の像全体が作る図形 G' を, f による G の像という.)

☞

問題 3.6 次の像を求めよ.

- (1) 行列 $\begin{bmatrix} 2 & -1 \\ 1 & 3 \end{bmatrix}$ で表される線型変換による直線 $y = x + 1$ の像
- (2) 行列 $\begin{bmatrix} 6 & 3 \\ -2 & -1 \end{bmatrix}$ で表される線型変換による直線 $2x + y = 1$ の像

3.2 線型変換の合成：合成変換

cf. 合成関数 $g(f(x)) = (g \circ f)(x)$

線型変換 f によって, 平面ベクトル $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ (あるいは点 $P(x, y)$) が $\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix}$ ($P'(x', y')$) に移され, さらに線型変換 g によって, $\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix}$ ($P'(x', y')$) が $\begin{bmatrix} x'' \\ y'' \end{bmatrix}$ ($P''(x'', y'')$) に移されるとする:

$$\begin{bmatrix} x'' \\ y'' \end{bmatrix} = g\left(\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix}\right) = g\left(f\left(\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}\right)\right).$$

このとき, $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ を $\begin{bmatrix} x'' \\ y'' \end{bmatrix}$ に対応させる変換 h を, f と g の ^{composition}合成変換といい, $g \circ f$ と表す:

$$\begin{bmatrix} x'' \\ y'' \end{bmatrix} = h \left(\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \right) = (g \circ f) \left(\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \right) = g \left(f \left(\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \right) \right).$$

ここで, 線型変換 f を表す行列を $A = \begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{bmatrix}$, g を表す行列を $B = \begin{bmatrix} b_{11} & b_{12} \\ b_{21} & b_{22} \end{bmatrix}$ とすると,

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} x'' \\ y'' \end{bmatrix} &= (g \circ f) \left(\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \right) = g \left(f \left(\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \right) \right) \\ &= g \left(\begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \right) = \begin{bmatrix} b_{11} & b_{12} \\ b_{21} & b_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \\ &= \begin{bmatrix} b_{11} & b_{12} \\ b_{21} & b_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} c_{11} & c_{12} \\ c_{21} & c_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \end{aligned}$$

であり (ただし, $BA = C = \begin{bmatrix} c_{11} & c_{12} \\ c_{21} & c_{22} \end{bmatrix}$ とおいた), 合成変換 $g \circ f$ は行列 BA で表される ことが分かる.

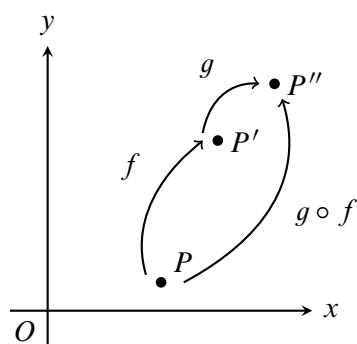
【例題 3.5】

行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ -2 & 3 \end{bmatrix}$, $B = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 1 & 2 \end{bmatrix}$ の表す線型変換をそれぞれ f, g とする. これらの変換について, 合成変換 $g \circ f$ を表す行列を求めよ.

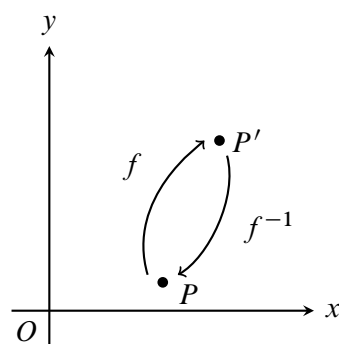
✎

問題 3.7 例題 3.5 の f, g について, 合成変換 $f \circ g$ を表す行列を求めよ.

※ 一般に, $BA \neq AB$ であり, $g \circ f \neq f \circ g$ である.



合成変換.



逆変換.

3.3 線型変換の逆変換

行列 A の表す線型変換 f によって、ベクトル $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ (点 $P(x, y)$) が $\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix}$ ($P'(x', y')$) に移され、
また行列 B の表す線型変換 g によって、逆に $\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix}$ ($P'(x', y')$) が $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ ($P(x, y)$) に戻される状況
を考える。すなわち、

$$g \circ f: \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

であり、 $g \circ f$ は恒等変換になっている。このとき、 g を f の逆変換 (inverse transformation) といい、 f^{-1} で表す。 $(f^{-1} \circ f)$ は恒等変換。

また f^{-1} を表す行列について、恒等変換 $g \circ f = f^{-1} \circ f$ を表す行列が $BA = I$ であることより、 $B = A^{-1}$ 、すなわち f^{-1} を表す行列は A^{-1} (A の逆行列) であることが分かる。なおこのことは、

行列 A の表す線型変換 f が逆変換をもつ $\implies A$ は正則行列である

を意味している。逆に、「 A が正則行列である $\implies A$ の表す線型変換 f は逆変換をもつ」も成立する。よって、

行列 A の表す線型変換 f が逆変換をもつ $\iff A$ は正則行列である。

【例題 3.6】

線型変換 f を表す行列を $A = \begin{bmatrix} 3 & -1 \\ -2 & 1 \end{bmatrix}$ とする。このとき、点 $P'(2, -1)$ に移される元の点 $P(x, y)$ の座標を求めよ。

✎

問題 3.8 線型変換 f を表す行列を $A = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 2 & 3 \end{bmatrix}$ とする。このとき、点 $P'(-1, 4)$ に移される元の点 $P(x, y)$ の座標を求めよ。

問題 3.9 行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 0 \\ 0 & 3 \end{bmatrix}$ で表される線型変換を f とする。このとき、 f によって、直線 $3x + y = 6$ に移される元の図形を求めよ。